

# 平成 29 年度 若者会議

発行 / 恵那市 まちづくり企画部 企画課

## はたらく・たべる・くらすの視点から意見交換

次世代を担う若者世代の意見を聴き、市の施策事業に反映させることを目的として、昨年に引き続き、若者世代の市民のみなさまに集まっていただきました。

当日は 18 名の参加があり、小坂市長の講話を聴いた後、「はたらく」「たべる」「くらす」のグループに分れて意見交換をしました。

■日時：平成 29 年 7 月 15 日（土）

9：30～11：30

■場所：恵那文化センター集会室

■当日参加者：18 名

（34 歳～44 歳の方が参加）

### ■プログラム■

- 開会
- 恵那市長の講話  
恵那市の未来を考えよう  
～はたらく・たべる・くらすの視点から～
- ワークショップ  
はたらく・たべる・くらす
- 発表・閉会



### 「若者会議」とは？

#### ■会議の目的

- 第 2 次恵那市総合計画（平成 28 年度～平成 37 年度）の推進に際し、次世代を担う若者世代のニーズを聴いて「人口減少対策」などの実現を目指します。

#### ■対象（参加者） 市内在住の 18～45 歳の方（市内 13 地域からの選出、公募）

#### ■会議結果の展開

- 会議結果は、総合計画の進行管理主体である「総合計画推進市民委員会」に報告し、総合計画実施計画（行政が行う事業）に反映させます。
- 地域の課題や提案について、各地域自治体に共有します。

## ワークショップ（はたらく・たべる・くらす）

ワークショップでは、「はたらく」「たべる」「くらす」のテーマ別に3グループに分かれて意見を出し合いました。

当日の意見は、グループ毎にまとめています。

### ① 「はたらく」グループ

#### ● 高齢者

- 高齢者が得意なことを活かして活躍できる場所を増やす。
- シルバー人材センターの登録・利用方法などを周知し利用を拡大する。

#### ● 若者

- リニア関連の企業を誘致する。
- 恵那市に専門学校等の教育機関をつくる。
- リニア岐阜県駅周辺に商業施設をつくる。
- 恵那南高校に特殊な地域色のある科をつくり地元就職につなげる。



#### ● 観光(体験)

- 観光をはたらくにつなげる。
- 観光は恵那にしかないもの（恵那峡や大井ダムなど）を活かす。
- 観光に向けた情報発信は、恵那の歴史・ストーリーを観光資源・特産物（栗、シクラメン、鮎など）とつなげて魅力を高める。
- 観光は、「体験」「学び」を提供する「くらし」こそが資源である。「物語」が伝わっていくことが大切。「本物」と出会うここにしかないもの＝「人」を資源にする。この人のもの。この人から学ぶ・体験する。
- 観光（体験）は強みや売れているものを伸ばす。
- 宿泊施設を充実させる。
- アウトドアレジャーを拡大する。（カヌー、ボルダリング、ツリークライミングなど）
- 名古屋圏向けに産業・観光ツアーを展開し、魅力発信を行う。（ダムツアー、歴史ツアー、マンホールツアーなど）
- 食や観光で魅力ある恵那をPRし、県外からの移住・定住者を呼び込む。

#### ● 起業・学ぶ場

- 起業の相談窓口をつくる。
- ママが起業しやすくなるようなスペースを確保する。
- 専門的な「はたらく」を学ぶ場や「お金を稼げること」を学ぶ場へのインターンシップを行う。

#### ● 農業

- 農業をやりたい若者は多いのでうまくつなげる。
- 恵那農業高校の卒業生を中心とした会社づくりをする。
- 価値の高い農作物を作る。（無農薬はニーズがあり付加価値が高い。柿・梅・栗 800～1,200円/kg）

- 生産グループの加工所や、ジビエの加工所が必要。
- 耕作放棄地の労働力は60歳代だが、低賃金やボランティアであり負担が大きい。

### ●地域活動・消防団

- 地域活動が負担になっている。
- 消防団活動が多すぎて負担になっている。活動量や内容を見直してほしい。労働能率の低下など仕事への支障がある。家庭では家庭力の低下になっている。
- 消防団員を有する企業のメリットがあるとよい。

### ●情報

- 空き店舗の情報を集約し情報提供できるとよい。
- 情報発信が大切。SNSなどを活用する。

### ●労働環境

- 今ある働く場の魅力をアップしPRする。
- フレキシブルな働き方のできる企業を増やす。(介護職、保育職の人手不足や早期離職対策にもなる)
- 子育てしながら働ける企業を増やす。フルタイムもパートタイムも選べて、フルタイムは女性が仕事と子育てと両立できる環境を会社が整えることが必要。

### ●林業

- 地域で消費するものを地域で作って売ることが重要。エネルギーの地域内循環で「薪ボイラー」を導入し、持続可能な自然エネルギーを活用することで林業の活性化につながる。
- 自営農、自伐林家が木の駅などで繋げられることが大切。

### ●サポート

- 様々な状況や事情により、すぐに働く事が難しい人のために中間的就労支援の充実が必要である。
- 「はたらく」のトータルコーディネートができるとよい。「生き方」「はたらく(働いてよい)」「起業(チャレンジしてみよう)」「つくる→売る」などを学ぶ場を提供すること、サポートすること、マッチングすることができるとよい。
- マルシェの経済効果は大きい。

### ●その他

- 恵那に就きたい仕事がないことによりUターン・Iターンできない現状がある。
- 高校のインターンシップだけでなく、企業が大学入学前から支援などで関わりをもち、大学卒業後に恵那市の企業に戻ってこられるようにする。
- Free-wifiを市全域にするとIT系の企業が参加しやすくなるのでは。
- 地域内の経済循環を生むことが大切である。
- 中津川市、瑞浪市と協力して「はたらく」を活性化させることはできないか。
- 駅前空き店舗を利用する。市のイメージアップにもつながるのでは。
- 企業誘致では市外から来る人の住むところを合わせて用意することが必要である。
- 東京などでもリニアを使って通勤できるので、恵那市に住んでもらうために通勤費の補助をしてはどうか。
- 「稼げる仕事」を模索するには、あるもの探しや広域交流をすることが必要である。
- 恵那の魅力を生きた学生や地元の人に学んでもらい働いてもらうことが大切。
- 小水力発電を活用できないか。

## ② 「たべる」グループ



### ●マーケティング

- 市外の人達が恵那の何を知っているのかを把握する必要がある。
- モノが良ければ人は来る。安売りせず、相応の価値を持たせて、それをどのように情報発信していくかが大切である。
- マーケティングをして、先を見据えた展開を要する。
- 市内外のエネルギーッシュな若者や富裕な高齢者の意見を取り込めば、良いアイデアがでるのでは

### ●発信力

- 地元の人だけが販売対象では厳しいので、もっと市外に向けて情報発信できる仕組みが必要である。
- 子供たちが「恵那の〇〇」と答えられるようになるぐらいの情報発信力があるとよい。
- 耕作放棄地を耕作することの魅力（儲かる）をアピールしないといけない。
- 「えなてらす」のアナウンスをもっと市外に向ける。
- インターネット検索で恵那に関するキーワードが上位にヒットするようにする。

### ●施設の活用

- 「食」と「施設」の魅力を融合させ、相乗効果により集客数の増加につなげる。
- 大井、長島、岩村など人の集まるエリアにチャレンジできる場所（施設）を作る。
- 店舗をどう確保するかが課題。
- 店舗などを利用せず、各種イベントの都度に販売するのもよい。

### ●ブランド(市としての)

- 「栗」は売れる。汎用性がある。
- 季節ごとの恵那の名品をラインナップできるようにするとよい。
- 以前、上矢作町でサイダーを作った。容器などのコスト高をどう克服するかが問題であった。
- 郷土料理や最新の料理など色々な店が併存できるようになるとよい。
- 13 地区の名産を連携する。各地区の名産を創出する。（寿者の滝の水（地元の水）でコーヒーなど）
- 五平バーガーなど地域ごとにタレが異なるバリエーションをつくり、ストーリー性を持たせてはどうか。
- 「恵那らしい」ではなく、「恵那で作ったもの」を売る。（何を作るかは作者次第）
- 恵那の人で勝負「生産者」「恵那」でブランド化。（モノは何でも良い）
- ブランド化の説明ができれば高価でも受け入れられるのでは。
- 地元以外の人買って初めてブランド化される。ブランド化をどう周知するかが課題。

### ●その他

- 恵那の特産品の詰め合わせ。単体では手土産になりにくいのをまとめた物がほしい。

### ③ 「くらす」グループ

#### ●医療

- ノルディックウォーキングやマレットゴルフなどを利用して予防医療をしてはどうか。
- 夕張市の事例として「自分たちで何とかする」という意識があれば医療費が減る。
- 予防のための予算充実。
- 高齢者など車を使えない方へのサービスが必要。(買い物や通院など)



#### ●住宅・土地

- 若い世代や移住者への空き家の情報やリフォーム補助の充実が必要。
- 家を建てるにしても土地がないし情報もない。
- 耕作放棄地を活用していくには担い手をどのように増やしていくかが重要。

#### ●地域

- 地域とのつながりを持ちたいと思っている若い世代に地域とつながる方法を教える。自分が住んでいる所を知ることが地元を考える機会になる。
- 消防の操法大会の簡素化が必要。特に子育て世代は時間的、金銭的に負担が大きいので入団する人がいない。
- 移住マニュアルの作成。(細かい田舎つきあいの作法なども)
- 「いいじ里山バス」や中野方の「おきもり」など外出支援的なものが増えるとよい。

#### ●子育て

- 出生率低下については、細やかに長期的に渡って対応していくために、市の中に子育て中の女性職員を配置した対策チームをつくり、定期的に各町の若者の意見を聴きに行き寄り添っていけるようにしてはどうか。  
ワンストップの子育て窓口。  
地域の意見を気軽に聴きに行く→同世代の女性が「ゆるい感じ」で出向くのが良い。
- 病児保育所の定員は3名であるが、インフルエンザやノロウィルスがはやる時期に対応ができるのか。
- 学童保育ありがたい。場所など利用しやすい。(北小)
- トイレ、手洗い場、ベンチのある楽しく遊べる公園が少ない。
- 自然を生かすよう「森の幼稚園」を民間主導、行政サポートで行えるとよい

#### ●仕事

- リニア開通後の製造業の存続が心配。
- 都市部のアンテナショップなど恵那産の農産物の直売所ができるとよい。

#### ●その他

- 間伐など適正な管理を行い災害に強い森をつくる。
- 生活道路沿いに木や草が繁り危険である。倒木や草刈りなどの予防的処理が必要。

## ワークショップの発表

ワークショップ終了後、各グループから選出された発表者が、それぞれ意見交換したことを発表しました。その後、小坂市長より講評をいただきました。

参加者のみなさんは、グループの発表や小坂市長の講評を熱心に聞き入っていました。



## 参加者のご意見・感想

閉会後に、参加者のみなさんに「意見・感想シート」を提出いただきました。ここでは、そのご意見、感想の一部を紹介します。

- 恵那市の出生率を聞きショックを受けました。広報などで数字は見聞きしていると思いますが、グラフやちゃんと時間を追って経過を見ると理解しやすく「恵那市大丈夫かな・・・」と考えてしまいました。このことを自分たちの生活に関わることと捉えている人は少ないと思います。すぐには変わっていかないかもしれませんが、この事実を解りやすく知らせることと、手立てを考えていくことが必要ですよ。
- 市長の話を聞かせていただき、色々なデータを数字で見せていただき、現実には驚きました。毎日の生活の中でいろんな些細な悩みを聞いてもらえる場所や環境がある中で、自分としては子育てしていきたいなと思います。その中でどうしても欠かせないのが車で、子供が自力で遊びに行ける所に友達がなくて、車で出かけるか、家で遊ぶしかないの別の方法で遊べる日があってもいいのと思います。恵那市がどの世代でも楽しく暮らせるようになると良いです。
- それぞれの地域や人の想いが話し合える良い機会でした。若者というくくりでなく、定期的に話し合いができる場があるといい。地域間の課題も話せるといい。
- これからの恵那市を存続させていくため、出生率を上げるには長期的に細やかな対応が必要だと思います。子育て中のお母さんたちの悩みはとても多岐にわたっているからです。そのためにはそのお母さんたちとコミュニケーションを図って色々な意見を聴くことが大切だと思います。それぞれの地域で細やかに動ける若者のグループがあると良いと思います。ただ、ボランティアだけでは成り立たない部分もあるので、そういったグループを支援していただくとありがたいです。今回は働けるお母さんだけに目が向けられがちでしたが、働かずこども園に行くまでは自分の目で子供に寄り添い子育てしたと思っているお母さんもいると思います。そういったお母さんへの寄り添いも大切だと思います。長期的に子育て支援に力が注がれることを願います。
- 働くというテーマは大変興味深く、様々な立場の意見が聞くことができました。自分に馴染みのある分野、特に観光についてはもちろんのこと、林業、農業についてボイラーの利用、水力発電、栗園の活用、獣害対策加工所の設置、それぞれの一連の仕組みづくりなど「はたらく」＝経済活動の起点となる部分なので充実させすぎて困ることはなく、恵那市に暮らす我々としても積極的に取り組んでいきたいと思っています。
- 活発な発言を受けて、いつも真剣に考えるような時間が持てませんでしたが、こういう時間を得ることで自分自身やその暮らしを見直すことができました。地域の人はあきらめ半分の意見の方もおられますが、前向きな若者がたくさん育てばと思うのでこういう機会や市長との交流会があれば話が膨らむかなと思います。
- 昨年と比べて参加者が少なくなっているのが残念でした。もっと若い人の意見が汲み上げやすい仕掛けづくりがいるかも。年1回だけの開催がもったいない。新城市のこども会議のような通年、継続的に議論、反映させていける場ができるといいと思います。

- グループになって話し合いすることは、1人の意見よりもより多くの良いアイデアが出ました。今回話し合ったことについて、結論は様々あるかと思います。実行できるもの、難しいものあるかと思います。「はたらく」「たべる」「くらす」を通じて働き手が恵那に増加し、恵那が発展、活性化が進み、住みよいまちづくりが実現されればと思っています。
- 地域に「あるもの」を資源として捉えることで、地域が生きてくる。市長さんのお話がとても活力を感じられて嬉しかったです。「伝えて広める」こと「わくわく」することこそが「人」を引きつける。「本物」の経験をどんどん広めていきたいです。「森づくり」のHPが作りたいです。恵那の大きな魅力なのでしっかりPRしたいです。
- リニアを使って東京へ勤務してもらうよう費用負担してほしい。(職種が無限に増える。地元から子供が出ていく必要がなくなる。) 企業誘致に際し、外から来る人の住むところ(アパートなど)を町の中心ぐらいに整備。恵那の魅力を地元の学生にPRし地元で働いてもらう。昨年の意見がどう反映されているか少しは見えたが、もっと早くもっと内容が見えるようにしていただきたい。時間がなくて意見も十分に言いきれないのでもっと場所を設けてもらいたい。この会議が昨年も今年も小学校のイベントと重なっているため、意見を言いたい人が参加できない。
- 話すことが大切だと感じました。色々な立場、年代で色々な意見が出てくると良いと思います。
- 恵那市をどうブランド化していくかを恵那市全体で考えていけるとよい。元々、恵那市の食べ物はおいしいので、外へ発信していくことを考える。上矢作の道の駅リニューアルをやりたい。
- 恵那市のことを考える良い機会になって非常に良かったと思います。ぜひ、他の市民の方にもこのような「機会」を作っていただければ、みなさんの思うこと、考えることが増えると思うので続けてもらえたらと思います。(機会がないと考えない。)
- 食べることは最も大切で、最も興味のあることだと思いますが、それを産業、生きがい、やる気に繋げていくことはとても難しいことだと改めて感じました。作ること、売ることを1つにして初めて成り立つことですが、相反することを1人にやらせるのではなく、それぞれの強みを生かしてタッグを組んでいけるような仕組みができるのではないなと思いました。

**当日は、多数のみなさまにご参加いただき、また、熱心な意見交換を行っていただき、誠にありがとうございました。**